

IAUD Newsletter vol.3 第7号 (2010年10月号) 目次

1. 特集 : *towards2010* いよいよ開幕、国際 UD 会議記者説明会開催
～充実した会議プログラムの概要ご紹介～ 1
2. モリサワ UD 書体への取組み～書体創りのノウハウを活かして～ 11
3. CaseStudy : 衣の UD プロジェクト その機能は美しいか
～おしゃれで機能性の高い UD ジャケットの実現を目指して～ 19
4. 世界の UD 動向 : アジア最大級のパッケージ総合展
「2010 東京国際包装展」で IAUD の活動を紹介！ 22

いよいよ国際 UD 会議が開幕します。昨年の 5 月号から続けてきました巻頭特集 *towards2010* も今月号が最終回となります。会議プログラムの詳細が固まり、9 月 27 日には記者説明会が東京・渋谷のセルリアンタワー東急ホテルにて開催されました。IAUD 総裁 寛仁親王殿下のご臨席のもと、テレビ局や新聞・雑誌、電子媒体など多数のメディア関係者に参加いただき、熱心な質疑や取材が続きました。今回は記者説明会の様子と充実した会議プログラムの概要をご紹介します。

特集 : *towards2010*

いよいよ開幕、国際 UD 会議 記者説明会開催 ～充実した会議プログラムの概要ご紹介～

先月27日、寛仁親王殿下ご臨席のもと、「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2010 in はままつ」の開催趣旨・会議内容などについて、報道関係者へ向けた説明会が開催されました。



説明会にはテレビ局、新聞・雑誌、電子メディアなど 27 媒体・32 名の参加がありました。山本組織委員会会長の開会のあいさつに続き、総裁からのお言葉がありました。岡本組織委員会副会長と成川実行委員会委員長からそれぞれ開催趣旨と会議内容について説明が行われ、その後の質疑応答では、UD の浸透状況や浜松市で開催が決定した経緯など、活発な質問が寄せられました。伊久組織委員会副会長の閉会のあいさつで会は終了しましたが、その後も登壇者への熱心な個別取材が続きました。



メディアの関心は国際会議の内容とともに人工咽喉頭を使用してお話された総裁の姿にも集まり、約 20 件の新聞・雑誌・電子メディアでの掲載記事のほとんどで総裁の写真が使用されていました。



会議のプログラム内容は第 1 回目、2 回目と比較しても格段に幅が広がり、それぞれのテーマがより深まったことが強く感じられます。以下に会期 5 日間の会議プログラム概要をご紹介します。



第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2010 in はままつ

The 3rd International Conference
for Universal Design in HAMAMATSU 2010

開催概要

日程：シンポジウム・分科会（登録が必要）

2010 年 10 月 30 日（土曜日）～11 月 3 日（水曜日・祝日）

展示会を併設開催（入場無料）

場所：静岡県浜松市・アクトシティ浜松、ほか

主なプログラム

※プログラムや開催日時の詳細は国際 UD 会議 2010 の公式ホームページをご覧ください。

<http://www.ud2010.net/program/index.html>

10 月 30 日（土曜日）

午後からメイン会場となるアクトシティ浜松の大ホールにて、開会式と公開シンポジウムが開催されます。開会式は総裁・寛仁親王殿下ご臨席のもと、川勝平太静岡県知事、鈴木康友浜松市長をはじめ各界から来賓をお招きして開催予定です。

公開シンポジウムは同会場で川勝静岡県知事の記念講演に続き 2 氏による基調講演、パネルディスカッションが開催され、夜には会議参加者の歓迎レセプションが予定されています。

また、併設展示会が展示イベントホールにて 13 時から一般公開されます。

開会式 午後 13 時～13 時 40 分

公開シンポジウム 14時～18時



記念講演：[川勝平太](#)（静岡県知事、前静岡文化芸術大学学長）

UDにより地域の発展と文化の向上に貢献する人材の育成を目指す前静岡文化芸術大学の元学長であり、今回会議の組織委員も務められている川勝静岡県知事が、開催地を代表して講演されます。



基調講演1：[「1/4の奇跡」](#) [山元加津子](#)（石川県特別支援学校教諭/作家・エッセイスト）
平成19年から氏をテーマにした映画「1/4の奇跡」「宇宙（そら）の約束」が続けて制作され、全国600ヶ所以上、海外25ヶ所以上で自主上映会が開催されている。



基調講演2：「第7の敵」 [ロナルド・ヒギンス](#)（作家/英国）

世界の安全保障問題をテーマにした執筆、講演活動を行っているフリーランスの作家。「第7の敵」とは人間の心の中にある「冷淡」「非情」「無関心」であり、人類はこの内なる敵と真剣に向き合わなければならないと警告した。

パネルディスカッション：「人と地球の未来のために」



＜パネリスト＞：[パトリア・ムーア](#)（ムーアデザインアソシエイツ代表/米国）

[ジム・サンデュー](#)（ノーサンプリア大学名誉教授/英国）

[トマス・バーデ](#)（ユニヴァーサルデザイン協会代表/ドイツ）

[シンガナパリ・バララム](#)（DJデザインアカデミー教授/インド）

＜コーディネーター＞：成川匡文（IAUD 理事長／東電環境エンジニアリング株式会社）

歓迎レセプション 19時30分～21時

ご来賓、登録参加者、主催関係者を対象としたオープニング・レセプションです。

併設展示会（展示イベントホール） 内覧会：12時～13時 一般公開：13時～18時

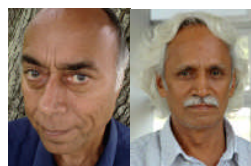
10月31日（日曜日）

本会議がこの日から11月3日まで、大ホールをメイン会場に全体会議、基調講演・報告、特別講演・報告が開催されます。分科会は3会場に分かれテーマごとに34セッションの開催が予定されています。また、南北問題を考えるワークショップが10月31日、11月1日、2日の3日間の午後に開催されます。

IAUDの中心的イベントともなってきた「48時間デザインマラソン」が静岡文化芸術大学ではじまります。その他各種アワードやコンテスト表彰式、映画上映などが予定されています。

全体会議 9時～10時20分

多様性の包摂



人間の多様性を理解し、できる限り包摂することがUDの基本である。多様性には年齢、性別、国籍、能力の違いはもとより、言語、文化、生活習慣の違い等も含まれる。いかなる人も不当に排除されることのない社会を構築するために我々は何をすべきか。

＜講演者＞：[ジム・サンデュー](#)（ノーサンプリア大学名誉教授/英国）

[シンガナパリ・バララム](#)（DJデザインアカデミー教授/インド）

基調講演・報告(大ホール)



世界を救うデザイン 10時35分～11時55分

＜講演者＞：本村拓人（株式会社グランマ代表取締役社長）

発展途上国で安全な水が得られず命を落とす子供の数は年間約180万人といわれている。その他、食料の欠乏、衛生や教育など、日常生活を送る上で多くの問題を抱えている発展途上国の人々を救うためにデザインに何が可能か、事例を紹介しつつ共に考える。



地雷原を農地に 13時30分～14時50分

＜講演者＞：雨宮 清（山梨日立建機株式会社代表取締役社長）

全世界で年間2万6千人が地雷被害で死傷しており、手作業で全ての地雷を除去するのに1,000年以上かかるといわれている。講演者の雨宮氏が開発した地雷除去機は、安全に効率的にそして迅速に地雷を処理する画期的な機械で、カンボジア、アフガニスタン、コロンビアなどで既に70台が稼働している。（併設展示会場で実機を展示予定。）

パネルディスカッション(大ホール) 15時5分～16時25分



持続可能な共生社会の実現へ向けて Part 1～政治の役割～

民主党政権下において政治主導が強調されており、従来の官僚主導による行政の弊害を、政治(国民)主導により、どう変革できるかが注目されている。UDは全省庁にまたがる政策理念および手法と位置づけられるため、閣僚(政治家)のイニシアチブと省庁間の連携が期待されている。各省庁の現職大臣と鈴木浜松市長(写真)をパネリストとして招聘する。

＜パネリスト(予定)＞：総務大臣、国土交通大臣、経済産業大臣、厚生労働大臣、
鈴木康友（浜松市長）

＜コーディネーター＞：岡本一雄（組織委員会副会長/IAUD評議員会議長/トヨタ自動車株式会社取締役副会長）

ワークショップ(31 会議室)

南北問題を考えるワークショップ Part1 3日間連続 13時30分～18時

分科会（3室：41 会議室、43・44 会議室、52・53 会議室）

テーマ：まちづくり(1)・(2)、公共トイレ、歩行空間、家電・住宅設備(1)・(2)、パッケージデザイン、子供のためのデザイン、UD政策、法律・法令、環境・エコロジー、UD理念

ポスターセッション（4F ロビー）

ポスターにて研究事例を日替わりで展示、順に発表が行われる。

特別セミナー 12時15分～13時15分

TOTO（41 会議室）

乃村工芸社（43・44 会議室）

表彰式・その他

ドイツユニヴァーサルデザインアワード表彰式（大ホール） 16時40分～17時20分

こどもUDコンテスト表彰式（大ホール） 17時20分～18時

UD映画鑑賞会：「1/4の奇跡」（大ホール）18時20分～20時20分

48 時間デザインマラソン メイン会場：静岡文化芸術大学

IAUD が 2004 年から取り組んでいるユーザー参加型ワークショップで、今回は国際会議のイベントとして国際色豊かな浜松市という地域環境にも目を向けながら、ユニヴァーサルで魅力的なデザイン提案を目指します。IAUD 会員や会員企業のデザイナーを中心に、マーケティング経験者やエンジニアなども加わり、次世代のリーダーとなる人材育成を目指した創造的ワークショップです。

内容：参加メンバーは、あらかじめ決められた 6 名のチームリーダーの下、6 チームに分かれ当日発表されるテーマに基づき 48 時間という限られた時間内に競争設計を行います。ユーザーと共に生活現場へ出かけ問題点を抽出しデザインの総合化とプレゼンテーション資料作成まで行います。

公開プレゼンテーション・表彰式 11 月 2 日(火曜日)16 時 40 分～18 時 30 分

来場者およびマスメディアに対するプレゼンテーションと来場者参加による公開審査により優秀作が表彰されます。 [>>48 時間デザインマラソンの詳細はこちら](#)

展示会（展示イベントホール）10 時～18 時

11 月 1 日（月曜日）

特別講演（大ホール）



旅と観光の UD 1 9 時～10 時 20 分

＜講演者＞：[秋山哲男](#)（日本福祉のまちづくり学会副会長/早稲田大学非常勤講師）

[ピーター・ノイマン](#)（ノイマンコンサルタント代表/ドイツ）

日本を訪れる外国人旅行者は、海外へ出かける日本人よりも少なく、日本の国際旅行収支は赤字である。政府は、訪日外国人旅行者を 2010 年までに 1,000 万人にする目標を掲げ、観光立国の実現に向け施策を進めてきたが、UD の観点からは努力不足の感が否めない。本セッションでは問題意識の共有化と解決策の提示に至る意見交換を行なう。



旅と観光の UD 2 10 時 35 分～11 時 55 分

＜講演者＞：[フランセスク・アラガイ](#)（デザインフォーオール財団代表/スペイン）

[川内美彦](#)（東洋大学教授）

観光による交流人口の拡大は、地域経済活性化の切り札でもある。スペイン第 2 の都市バルセロナは、UD に注力している観光都市としても知られている。アラガイ氏はバルセロナ市、カタルーニャ自治州と連携して実現した事例紹介を通して課題共有化と今後の展望に繋げる。川内氏は、建築コンサルタントとして、バリアフリー設備の不法改造で社会問題となった東横インの再生に尽力。UD 対応ホテルとしての変革の内容を解説しながら、ホスピタリティや「おもてなし」の概念への考察を行なう。

基調講演・報告（41 会議室）10 時 35 分～11 時 55 分



持続可能な社会の構築へ向けて

＜講演者＞：[パトリシア・ムーア](#)（ムーアデザインアソシエーツ代表/米国）

[益田文和](#)（東京造形大学教授）

持続可能（サステイナブル）な社会とは、地球環境保全における循環型社会の意味のみならず、世代間の継承を踏まえ、人権や人間性の尊重を考慮しつつ、持続的に発展できる社会との意味もある。人口爆発や食料の欠乏、および資源の枯渇等から引きこされる国際紛争、貧困等のグローバルな課題にも UD の観点より問題提起とソリューション提示が期待されている。

パネルディスカッション（大ホール）

アジアのモビリティ 1 16 時 40 分～18 時



シンガポール、台湾、そして日本のモビリティの現状に関する意見交換を通して、言語、社会体制、文化、生活習慣の違いを超えて経済成長を続けるアジア圏におけるUDの今後の課題を話し合う。

＜パネリスト＞：イサ・ビン・カマリ（シンガポール国土交通局部長/シンガポール）
吳可久（国立台北科技大学准教授/台湾）
秋山哲男（日本福祉のまちづくり学会副会長/早稲田大学非常勤講師）
川内美彦（東洋大学教授）

特別報告（41 会議室） 16 時 40 分～18 時

アジアのモビリティ 2

シンガポールと台湾のモビリティの現状に関する詳細報告。パネルディスカッション「アジアのモビリティ 1」では伝えきれない具体的な事例を解説し、さらに専門的な議論に繋げる。

＜講演者＞：シンガポールの公共交通
イサ・ビン・カマリ（シンガポール国土交通局部長/シンガポール）
台湾の公共交通
吳可久（国立台北科技大学准教授/台湾）

パネルディスカッション（大ホール）

裁判の UD 15 時 5 分～16 時 25 分



昨年から始まった裁判員制度に視覚・聴覚障害者が安心して参加できるように裁判の準備や手法にも抜本的な改善が必要との意見がある一方、裁判所側では検討中との回答がなされたまま、何も進展していない状態が続いている。現状の問題点および解決策について、法曹関係者も交えた議論を行なう。

＜パネリスト＞：山根香織（主婦連合会会長）
安原 浩（弁護士/元松山家庭裁判所所長）
布施久美子（札幌高等裁判所速記官）

＜コーディネーター＞：蔦谷邦夫（IAUD 情報交流センター/富士通デザイン株式会社）

市民の社会的責任 16 時 40 分～18 時

自動車や電機を中心とした日本の大企業の UD に対する関心は概して高く、企業の社会的責任(CSR)として積極的に取り組んでいるところが多いが、世界の趨勢はむしろ消費者や市民の社会的責任こ



そ議論されるべきとなっており、国際標準機構 (ISO) においても標準化 (ISO26000) が進みつつある。日欧のパネリストの意見交換を通して、あらためて市民の社会的責任に関する問題点を浮き彫りにする。

＜パネリスト＞：サラ・ホラック（オピニオンリーダーリサーチ社取締役/英国）
フランセスク・アラガイ（デザインフォーオール財団代表/スペイン）
内田宏康（NPO 法人福祉のまちづくり市民ネットワーク専務理事）
杉浦政紀（市民代表）
高橋陽子（日本フィランソロピー協会理事長）

IAUD セッション

IAUD アワード表彰式（大ホール）12時15分～13時15分

選考委員会による審査の結果、4件の優秀賞が既に決定し発表されていますが、会議当日、優秀賞の中から大賞が選考され、大賞及び優秀賞の紹介と表彰が行なわれます。

IAUD の研究活動の紹介（41 会議室）15時5分～18時（途中休憩 15分）

IAUD 研究部会の8つのプロジェクトおよびワーキンググループから活動報告が行われます。

ワークショップ(31 会議室)

南北問題を考えるワークショップ Part 2 3日間連続 13時30分～18時

分科会（3室：41 会議室、43・44 会議室、52・53 会議室）

テーマ：情報デザイン(1)・(2)・(3)、建築計画(1)・(2)・(3)、人間工学/エルゴノミクス、住宅(1)・(2)、モビリティ(自動車)、障害者のためのデザイン

ポスターセッション（4F ロビー）10時35分～16時40分（途中コーヒープレークあり）

ポスターにて研究事例を日替わりで展示・発表が行われる。

展示会（展示イベントホール）10時～18時

11月2日（火曜日）

基調講演・報告（大ホール）



[ノルウェーの UD](#) 9時00分～10時20分

[「境界を押し広げ、国の考え方を変える」](#)ほか

＜講演者＞：[オンニ・エイクハウグ](#)（ノルウェーデザイン協議会代表/ノルウェー）



[ディータ・シアウ](#)（ノルウェー視覚障害者協会/ノルウェー）

北欧諸国は1960年代にいわゆる「ノーマライゼーション」を提唱。「障害者を人里離れたコロニーに隔離するのではなく、街中で健常者とノーマルな生活ができるような社会」にすべきと強調し、現在のUDの原点となった。ノルウェーは、女性の社会進出の割合が極めて高いことでも知られている。最新のノルウェーUD事情を報告いただく。



[デンマークの UD](#) 10時35分～11時55分

[「デンマークの多様性受容と自己決定権」](#)ほか

＜講演者＞：[磯村 歩](#)（株式会社グラディエ代表取締役社長）



[カリン・ベンディクセン](#)（ベックスコム代表/デンマーク）

福祉先進国であるデンマークは、同時に環境先進国でもある。エネルギー自給率は既に100%を超え、そのうち再生可能エネルギーの比率を現時点の約20%から2020年には30%にまで引き上げる計画という。首都コペンハーゲン自転車都市であり、公共交通機関との連携にも学ぶべき点が多い。デンマークの最新UD事情をレポートしていただく。

[ドイツの UD](#) [米国の UD](#) 13時30分～14時50分



[ドイツの UD](#)：[「果てしない物語…もしくは全体論的方針を信ずる」](#)

＜講演者＞：[トマス・バーデ](#)（ユニヴァーサルデザイン協会代表/ドイツ）

iF 賞やレッド・ドット賞等、高品質なデザイン製品のセレクションに定評のあるドイツ

に、2008年よりあらたにユニヴァーサルデザイン賞が登場。主催のユニヴァーサルデザイン協会は今回、展示も行なっており、ドイツの最新UD事情を報告いただく。



米国のUD:「米国の視点、動向と機会」

＜講演者＞：[ヴァレリー・フレッチャー](#)（人間中心デザイン研究所所長/米国）

1985年にユニヴァーサルデザインの用語と概念を創造、UD 7原則の定義も提唱するなど、UDの牽引役として位置づけられている米国の近況をレポートする。「人間中心デザイン研究所」は、1978年創設の「アダプティブ・エンバイロメンツ」の改称だが、「21世紀のためのデザイン国際会議」を1998年ニューヨーク、2000年プロヴィデンス、そして2004年にはリオデジャネイロで開催するなど、常に先進的な取り組みをしてきた。



書体のUD（41会議室）13時30分～14時50分

『読む』技術を向上させるタイポグラフィとは」

＜講演者＞：[河野英一](#)（タイポグラフィックデザイナー）

英国ロンドン交通局採用の可読性に優れた書体「New Johnston」は河野氏のデザイン。視認性、判読性を高めたUDフォントの典型例といえる。第一線で活躍するタイポグラフィック・デザイナーから、書体（フォント）デザインに関わる貴重な話をお聞きする。



生活用品のUD（41会議室）13時30分～14時50分

＜講演者＞：[石井賢俊](#)（ニドインダストリアルデザイン事務所代表）

60年代から生活福祉用品のデザインを中心に活躍し続けている工業デザイナーのパイオニア。「人間の尊厳」にポイントを置いた寝たきり老人向け採尿器や乳幼児向け姿勢保持具など、当初より多様なユーザーの要求を取り込んだデザインを追求している。

パネルディスカッション（大ホール）

持続可能な共生社会の実現へ向けて Part 2 ～行政の役割～ 15時05分～16時25分

Part 1が政治家セッションだったのに対し、Part 2はそれを踏まえて行なわれる官僚セッションである。各省庁のUD関係部署の室長、課長クラスの方々に参集いただき、それぞれの所管の事業を踏まえて、日本の進むべき道、あるべき社会の姿について論じていただく。

＜パネリスト＞内閣府、総務省、国土交通省、経済産業省、厚生労働省より予定

ワークショップ（31会議室）

南北問題を考えるワークショップ Part 3 3日間連続 13時30分～18時

分科会（3室：41会議室、43・44会議室、52・53会議室）

テーマ：情報デザイン(1)・(2)・(3)、建築計画(1)・(2)・(3)、人間工学/エルゴノミクス、住宅(1)・(2)、モビリティ(自動車)、障害者のためのデザイン

ポスターセッション（4Fロビー）10時35分～16時25分（途中コーヒープレークあり）

ポスターにて研究事例を日替わりで展示・発表が行われる。

展示会（展示イベントホール）10時～18時

特別セミナー 12時15分～13時15分

パナソニック（41会議室） 丹青社（43・44会議室） 富士通（52・53会議室）

48時間デザインマラソン 公開プレゼンテーション・表彰式（大ホール）16時40分～18時30分

交流会（会費制 はままつ地ビールレストラン マイン・シュロス）19時00分～20時30分

展示会（展示イベントホール）10時～18時

11月3日（祝日・水曜日）

会議最終日には5日間にわたる会議全体を総括するプログラムが予定されています。イベントの締めくくりとして、閉会式では「国際ユニヴァーサルデザイン宣言 2010」が発表されます。

パネルディスカッション・全体会議

ユーザー参加型デザインワークショップの意義と将来展望 9時00分～10時20分

IAUD が 2004 年より毎年実施している 1 泊 2 日の UD ワークショップは、2006 年の京都における国際会議時に英国王立芸術大学院ヘレンハムリンセンターとの共同開催となり、48 時間デザインマラソンと改称するに至った。障害を持つユーザーの開発現場への参加によるワークショップスタイルには、チームメンバーの著しいモチベーション向上など、目を見張る成果があることが立証され、さらなる発展が期待されている。



＜パネリスト＞： 荒井利春（金沢美術工芸大学教授）

ジュリア・カセム（王立芸術大学院上級研究員/英国）

太田啓子（財団法人たんぽぽの家／立命館大学 衣笠総合研究機構 客員研究員）

秋谷英紀（トヨタ紡織株式会社クリエイティブスタジオ室室長）

ソーシャルデザインマネジメント 10時35分～11時55分

本セッションは日本感性工学会デザイン&ビジネス研究部会とのコラボレーション企画であり、同部会が追求してきた経営革新におけるデザインの関わりや意義を明らかにすることを一つの目的とするが、特に UD やサステイナブルデザインの考え方を含むソーシャルデザインやソーシャルマーケティングの観点から見た経営のあり方やデザインマネジメントのあり方への議論や提言を導く。



＜パネリスト＞： 竹川亮三（シンカデザイン代表/元ケンウッドデザイン株式会社代表取締役社長）

和田精二（湘南工科大学教授/元三菱電機株式会社デザイン研究所長）

河原林桂一郎（静岡文化芸術大学副学長/元株式会社東芝デザインセンター長）

川口光男（株式会社日立アプライアンス取締役/前日立製作所デザイン本部長）

経営における UD 13時30分～14時50分

本セッションにおいては、UD がもはやデザインマネジメントの問題を超え、重要な経営課題であるとの認識のもと、経営革新および産業活性化において、経営上どのような問題があり、それらをどう解決していくべきか等の意見交換に繋げたい。さらにソーシャルビジネスや社会的責任の観点から見た経営のあり方や今後の日本及び世界の平和的発展に資する提言となれば意義深い。

＜パネリスト＞： 山本卓眞（IAUD 会長/富士通株式会社名誉会長）

戸田一雄（IAUD 顧問/元松下電器株式会社副社長）

成川匡文（IAUD 理事長/東電環境エンジニアリング株式会社営業本部長）

＜司会進行＞： 川原啓嗣（IAUD 専務理事/名古屋学芸大学大学院教授）

全体総括セッション・全体会議 15 時 05 分～16 時 25 分

未来の世代への遺言

「人と地球の未来のためにー持続可能な共生社会の実現に向けてー」のテーマのもと開催した今回の国際会議全体を総括し、特に強調すべき成果は何か、新たに明らかになった点は何か、また今後さらに議論を進めるべきポイントは何か等、話し合っていた。それらは、すなわち未来の世代への遺言（メッセージ）となるであろう。



＜講演者＞：[ロナルド・ヒギンス](#)（作家/英国）

[ロジャー・コールマン](#)（王立芸術大学院名誉教授/英国）

[ヴァレリー・フレッチャー](#)（人間中心デザイン研究所所長/米国）

成川匡文（IAUD 理事長/東電環境エンジニアリング株式会社営業本部長）

司会進行：川原啓嗣（IAUD 専務理事/名古屋学芸大学大学院教授）

閉会式（大ホール）16 時 40 分～17 時 20 分

全プログラムでの議論をふまえ「国際ユニヴァーサルデザイン宣言 2010」が発表されます。

展示会（展示イベントホール）10 時～15 時

ご紹介してきたように会議のプログラム内容は大変、幅広い領域で意義深いテーマが多数準備されています。2002 年、2006 年の会議にも増して白熱した議論が期待されますが、最終的にイベント成功のカギを握っているのは、会議後に具体的な行動を起こし、実践につなげていこうとする参加者の取り組み姿勢や熱い気持ちにあると思います。今回の会議での議論や参加される皆さまひとりひとりの体験、気づきなどにより、UD 社会への変革・実現が少しでも進むよう期待しています。

※なお、プログラム内容、日時、会場等に変更する場合がありますので、予めご了承ください

モリサワ UD 書体への取組み

～書体創りのノウハウを活かして～

株式会社モリサワ フォント企画部

阿野 勝俊

<http://www.morisawa.co.jp>

■はじめに

株式会社モリサワは、1924 年の創業以来、文字（書体）と文字を扱うシステムを提供してきた会社です。

時代の流れとともに求められる書体も変化し、技術の変革とメディアの多様化にも同時に対応してきました。

当社の書体は、印刷、出版、グラフィックデザイン、いわゆるプロフェッショナルとよばれる業界を中心に新聞や書籍、情報誌やカタログ、チラシ、マニュアル、DM などの紙媒体はもちろんのこと携帯電話やカーナビ、ゲーム機や列車内運行情報サービスなどの電子表示デバイス、Web など多種多様なメディアで広くご使用いただいています。

ラインナップには明朝体やゴシック体、筆書といった伝統書体、表情豊かなデザイン書体はもちろんのこと、新聞書体や教科書などで使用する学参書体（学習指導要領に準拠）といった、それぞれの用途に応じた書体もご用意しています。

書体選びは作り手側（情報を伝える側）がその情報に合ったものを選ぶことが重要で、UD 書体も媒体、読み手を考慮した上での選択が重要だと考えます。

永 永 永 永 永

明朝体

ゴシック体

丸ゴシック体

デザイン書体

筆書体

永

永

永

永

永

永

永

永

永

永

永

永

永

永

永

■ユニバーサルデザインと書体

現在、多くの企業や団体がユニバーサルデザインに取り組まれています。高齢者を含めた広範な方々へ、読みやすく、読み間違えにくい書体へのニーズが高まりつつある中、2006 年よりユニバーサルデザイン書体（以下 UD 書体）の開発に取り組み、2009 年 11 月に明朝系 UD 書体やゴシック系 UD 書体など 4 種類 21 書体をリリースしました。

ユニバーサルデザインを意識した、特に文字を扱う媒体では、文字の大きさ、行間、字詰め、太さ、容易に識別できる色使いなどの要素と可読性に優れた読みやすい書体が重要な要素となります。書体以外にも配慮すべき要素は多々あり、UD 書体はそれら要素と組合わせた上での使用により書体本来の力を発揮します。

■文字が見えにくい状況とは

UD 書体開発にあたって、まず文字が正しく認識されにくい状況を整理しました。年齢や疾病など身体の状態によるもの、光の反射など環境によって左右されるものが挙げられます。

見えにくい状況の例

太い線や込み入ったところがつぶれる。

見やすい書体

細い線がかすんで見える。

見やすい書体

光がまぶしく見えると、細い線がとんでしまう。似たシルエットの文字の判別がしづらい。

見やすい書体

83S56 間間間間

環境や疾病などにより、

文字の一部分がとぎれて見える。

わねれ

■書体開発について

当社の書体開発は、デザインのブレをなくすため一人の書体デザイナーが、基本となる約 500 字の原図（デッサン）を描き、コンピュータに取込み字形を整える作業をします。書体を仕上げるまでに行う印字テストでは約 3 万通りの熟語を並べ、文字の黒み（太さ）は均一に見えるか、文字の「見え」の大きさは適正か、美しく並んでいるかなど検証と修正を繰り返し行い膨大な時間と手間をかけ製品化しています。

UD 書体開発では、このような従来の検証に加え、ほとんどの高齢者に見られる白内障を書体デザイナー自身が疑似体験できるゴーグルを着用し、また、高齢者や視覚に障がいを持つ方が PC の表示画面で白黒反転表示（高コントラスト）を利用するケースもあることから、白黒反転での印字物でも評価、検証を行いました。

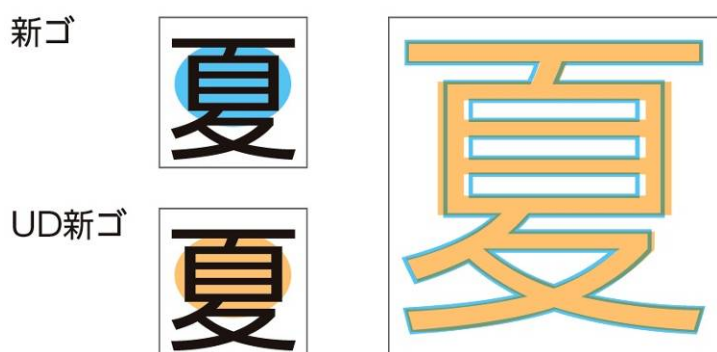
■ 3つのコンセプトと工夫例

「文字のかたちがわかりやすいこと」「読みまちがえにくいこと」「文章がよみやすいこと」の3つのコンセプトを掲げ、それぞれでの工夫を施しています。

「文字のかたちがわかりやすいこと」

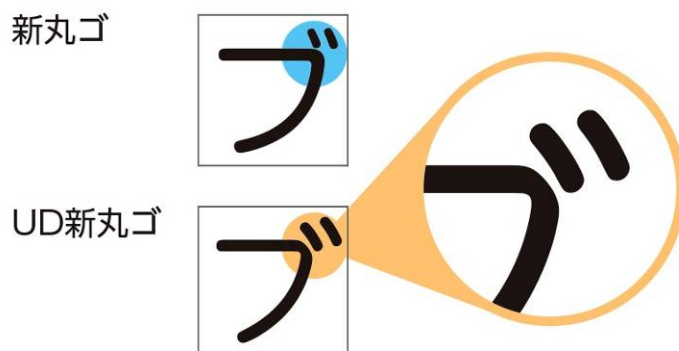
文字の中の空間（フトコロ）を広くとることによって、つぶれにくく、読みやすくしています。

※説明の図版は UD 書体の元となった書体「新ゴ」と比較したものです。



見分けづらい濁点／半濁点が大きくデザインされています。

※説明の図版は UD 書体の元となった書体「新丸ゴ」と比較したものです。

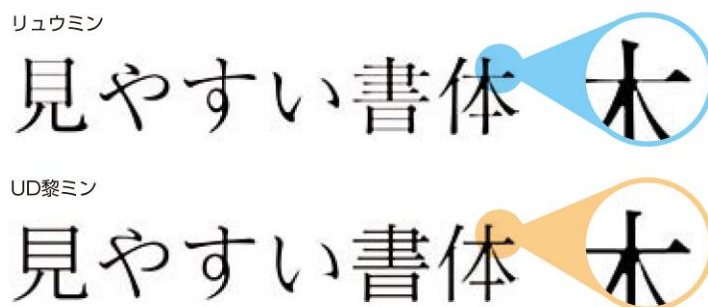


「S」「3」「6」「8」では開口部は広く、シンプルな形に。「0」「0」ではゼロは細長く、オーは丸く。「I」「1」ではアイは直線、エルは曲がりをつけて、読み間違いがないよう、文字を差別化しています。



「読みまちがえにくいこと」

まぶしかったりかすれたりしても文字が認識しやすいよう、明朝体では横画が少し太めのデザインになっています。



手書きに近いかたちに調整しているので、直感的に文字を認識できます



「文章が読みやすいこと」

漢字とかなの大きさにほどよい差があると、文章は読みやすくなります。UD 書体は漢字とかなの大きさに少しリズムを持たせ、読みやすくしています

新ゴ

満天に散在する星の一群を綴り合せて、いろいろな形を想像して出来たのが星座である。星座は人間の詩的空想の産物であって、いかに沢山の星が天にあるからと云っても、それらが精密な物体を型造る程沢山あるわけではなく、いくつか点在する星と星との間に人間が勝手な空想の線を描いて

UD新ゴ

満天に散在する星の一群を綴り合せて、いろいろな形を想像して出来たのが星座である。星座は人間の詩的空想の産物であって、いかに沢山の星が天にあるからと云っても、それらが精密な物体を型造る程沢山あるわけではなく、いくつか点在する星と星との間に人間が勝手な空想の線を描いて

■UD 書体ラインナップ（全 24 書体）

2009 年 11 月のリリース以来、明朝系の「UD 黎ミン」、2つのゴシック系「UD 新ゴ」、「UD 新ゴ NT」、丸ゴシック系「UD 新丸ゴ」それぞれ 6 つのウエイト（太さ）で合計 24 書体を用意し、ユニバーサルデザインを意識した媒体で本文、見出しなど広くご利用いただけます。

■ フォントフォーマット：OpenType

■ 文字セット：Adobe-Japan1-4[Pro]

UD^{レイ}黎ミン L/R/M/B/EB/H

R さまざまなシーンで活躍する

UD新ゴ L/R/M/DB/B/H

R さまざまなシーンで活躍する

UD新ゴNT L/R/M/DB/B/H

R さまざまなシーンで活躍する

UD新丸ゴ L/R/M/DB/B/H

R さまざまなシーンで活躍する

※ L/R/M などの表記は各ウエイト（太さ）を表しています。

■UD 書体はあらゆるところに活かされます

UD 書体は、交通標識、地図、案内表示、広報誌など公共性の高いものや取扱説明書、注意書き、成分表示、約款、名簿など特に正確な情報伝達が求められるもので採用がすすんでいます。また、高精細な画面表示が可能となった携帯電話やカーナビゲーションシステムなどのデジタル表示デバイスでも採用がさらに加速するものと考えています。



交通標識、地図、
公共の案内表示、
手続き用紙、広報紙、
教材 など



リモコンの操作表示、
取扱説明書、
注意書き、成分表示
など



約款、名簿、
株価表示、
企業のIR情報、
Webページ など



携帯電話、
カーナビ、電子辞書、
デジタルサイネージ
など

■採用事例紹介

1. 株式会社 NTT ドコモ 「らくらくホン7」

「らくらくホン7」では「UD 黎ミン」と「UD 新丸ゴ」が採用されています。画面表示用の書体として利用され、電話番号やメールの文章、メニュー表示の文字が見やすくなり、読み間違いを防ぎます。



2. 西武池袋本店 サイン

遠方からでも視認性の高いオリジナルのピクトグラムに UD 書体を併用することでより分かりやすいデザインを実現しています。



3. 広報「宮若生活」(福岡県宮若市)

福岡県宮若市の広報紙「宮若生活」では、2009年11月号より本文に「UD 黎ミン」を採用。宮若市は人口の約28%が65歳以上の高齢者で、UD 書体を採用したことにより文字サイズを変えることなく（情報量はそのままに）紙面の刷新ができました。



■UD 書体提供製品

UD 書体を提供する製品は、すべてのモリサワフォント（504 書体：2010 年 10 月現在）を一定の料金でご利用いただけるライセンス製品（MORISAWA PASSPORT）と必要な書体を 1 書体からご購入いただくパッケージ製品をご用意しています。

ライセンス製品

- ・ MORISAWA PASSPORT / MORISAWA PASSPORT ONE（52,500 円 [税込] / PC 1 台 1 年間）

「MORISAWA PASSPORT」は、すべてのモリサワフォントをご利用いただける他に、新書体リリース時には新書体を収録した「アップグレードキット」を追加料金なしでご契約のお客様へお届けしています。プロだけでなく官公庁や一般の企業でも採用がすすんでおり、昨年末のアップグレードで、すでにたくさんの方々が UD 書体をお届けしています。



パッケージ製品

- ・ MORISAWA Font Select Pack 1（21,000 円 [税込]）
- ・ MORISAWA Font Select Pack 3（56,700 円 [税込]）
- ・ MORISAWA Font Select Pack 5（84,000 円 [税込]）

※ 末尾の数字はお選びいただける書体数です。



■ユニバーサルデザイン（UD）フォントマークを提供

UD 書体リリース以降、当社の UD 書体を使用した媒体に UD 書体使用を示すマークを数多くのお客様からご要望をいただいた「ユニバーサルデザイン（UD）フォントマーク」の提供しており、ユニバーサルデザインへの取組みのアピールにお役立ていただけます。



下記 URL よりダウンロードいただけます。

<http://www.morisawa.co.jp/udmark/>

■“文字を組む”をテーマとした取組み

文字と文字とを並べて文章にする、いわゆる“組版”で見た目の印象や可読性は大きく変わってきます。文字の大きさ、字詰め数や行間などに配慮する必要があります。

当社では、文字を通じて永年培ってきたノウハウを元に、可読性に大きな影響を与える“文字組版”の講習会を開催しています。



■最後に

今回、国際ユニヴァーサルデザイン協議会様にご提供いただき謹んでお礼申し上げます。

多種多様なメディアでユニバーサルデザインを実現する上で、書体に求められることなど会員企業様と意見交換できる場があれば積極的に参加したいと考えています。

Case study: 衣の UD プロジェクト

衣服のユニヴァーサルデザイン～その機能は美しいか おしゃれで機能性の高い UD ジャケットの実現を目指して

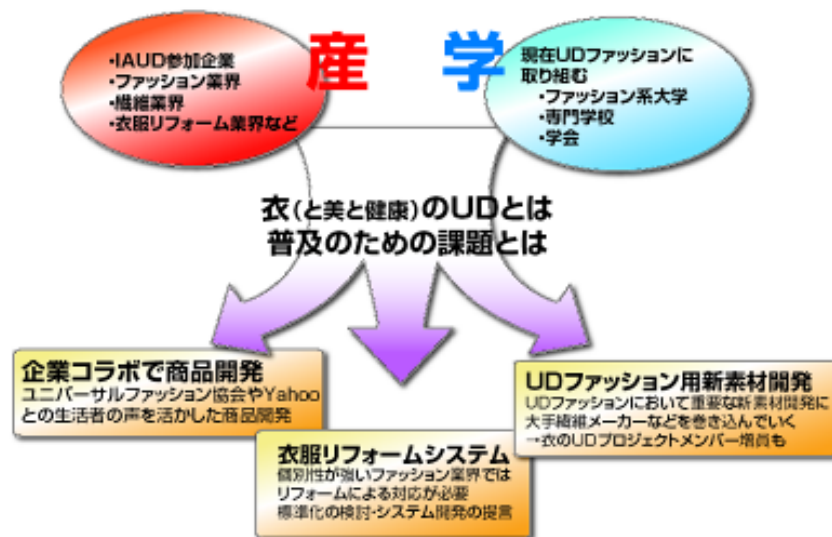
スリーエムヘルスケア株式会社
安全衛生製品事業部 マーケティング部
一色 香月

衣の UD プロジェクトは生活に不可欠な「衣・食・住」のなかで「衣」をターゲットとしたプロジェクトとして 2005 年に発足しました。研究開発企画部会の中では 5 番目に発足したプロジェクトです。着易さ、使い易さのユニヴァーサルデザインを美しさ・格好良さに繋げることを目標とし、産学協同で取り組んでいます

● 2007 年度までの取り組み

2005 年のプロジェクト発足時より、「産・学の協業」をテーマ会員である NPO 法人ユニバーサルファッション協会（以後 UNIFA）を中心に服飾関連や学術関係と「衣」の UD における問題点や普及のための課題などを収集し、次のプログラムに取り組んでいます。

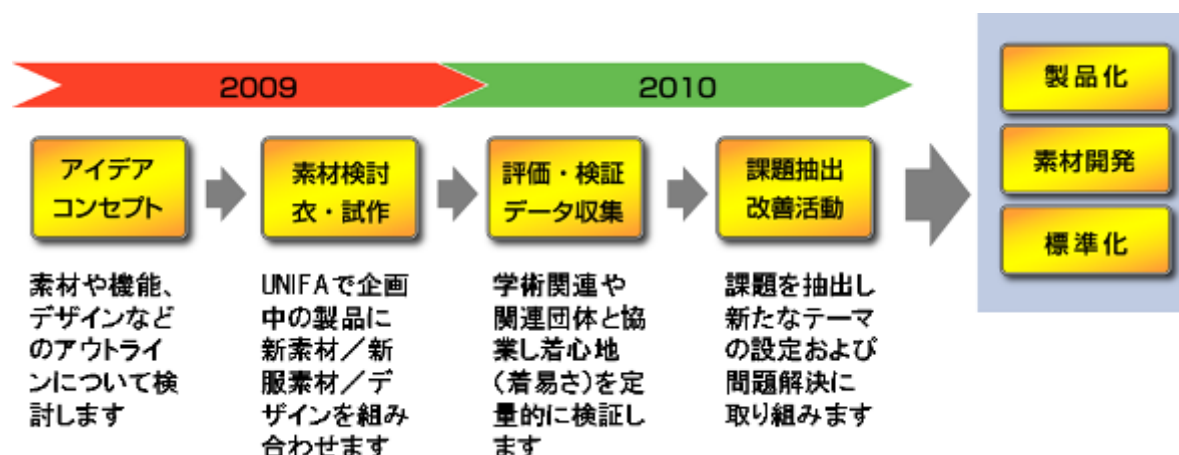
- ◆ UD 用新素材の検討
- ◆ 各企業の UD 素材を活用したコラボレーションによる商品開発
- ◆ 衣類の廃棄などに対する環境を考えたリフォームの標準化やシステム開発の検討



● 2008 年度の取り組み

「衣」の UD プロジェクトを進めていくなかで、UD 化された衣類を実際に目にする機会がなかなかありません。特に私のような UD ビギナーになるとなおさらです。そこで、今までの検討と知見をもとに実際に成果物を作り、評価することで課題を抽出することプロジェクトで決定しました。そのゴールは 2010 年 10 月に行われる国際 UD 会議に設定し、下図のとおりロードマップを作成しました。

このプロセスを一つのサイクルとして行い、UD 製品や素材の開発、標準化に役立てたいと思います。さらに知見を蓄積し製品化を目標としています。



● 2009 年度の取り組み

アイデアコンセプトフェーズ

衣のUDに蓄積された知見を持つUNIFA様を中心にアイデア討議をした結果、コンセプトを「～その機能は美しいか～」とし、「着脱の容易さ」「着心地」「おしゃれ」なスポーツカジュアルジャケットを制作することを決定しました。



素材選択・デザイン検討フェーズ

UD ジャケットを作るため、課題抽出のための討議を繰り返し、また活用できそうな生地や服資材について素材メーカー様に参加いただき勉強会をしました。

素材の選定において、上着の着脱において負担になるのは袖に腕を通すこととファスナーの操作であると仮定から、そして着心地においては軽さと肌触りをポイントとしました。

◆ 生地：

生地の機能として伸縮性と軽さに着目しました。この生地は、多方向に伸び、非常に軽く、しわになっても回復しやすいという特徴をもっています。

◆ ファスナー：

樹脂性ファスナーは止め具がスナップ式になっており、ファスナー操作が簡単という特徴を持っています。また、金属ファスナーは軽量でカラーバリエーションが豊富なタイプを使用しました。

デザインについては、生地の伸縮性を生かし、無理なく腕を通すことが出来るようにしました。また、ファスナーの使い方も考えた配置にすることで、思わず外出したくなるようなジャケットをデザインしました。



- 2010 年度の取り組み

UD ジャケット試作・評価フェーズ

年初よりプロトタイプを作成に入り、試着を重ねながら本縫製に向けて検証を行いました。特に腕の稼動域を大きく確保できるようなデザインにしたため、パターン化が難しく時間がかかりました。そのためスケジュールが大幅に遅れましたが、9月に完成しました。



完成した UD ジャケットの評価として特徴に応じて評価をしています。地方独立行政法人 東京都立産業技術センターと UNIFA 商品研究会のご協力得て試着試験やビデオ撮影などの評価が終了しました。また、作業療法士のご好意でネットワークを活用させていただき老人介護施設で着脱のアンケート調査を実施中です。

- 最後に

完成品および評価結果・課題については「第3回国際ユニバーサルデザイン会議 2010 in はままつ」にて発表する予定です。
どうぞ楽しみに。

世界の UD 動向

■アジア最大級のパッケージ総合展「2010 東京国際包装展」で IAUD の活動を紹介！

東京ビッグサイトで10月5日(火)～8日(金)開催された、包装・パッケージ関係の総合展示会「2010 東京国際包装展」のユニバーサルデザインパビリオンに IAUD として出展し、研究部会を中心とした活動紹介のパネル展示と国際 UD 会議の PR を行いました。主催者の発表によると4日間で入場者数約17万人および約6万2千人の来場登録者数があり、幅広い業界の関係者、500社以上の国内外の包装関連企業に対して、IAUD の活動をアピールすることができました。



本展示会は 1966 年から隔年で開催されているアジア最大級のイベントで、23 回目となる今回は、環境配慮・ユニバーサルデザイン・パッケージデザイン・安心&安全をテーマとしたゾーンが企画され、主催者より IAUD に対しユニバーサルデザインのエリアに展示協力の依頼があったものです。

IAUD の食の UD プロジェクトで提案している「やけど注意」ピクトグラムの活動が主催者の目にとまり今回の依頼となったものですが、国際 UD 会議の直前でもあるため IAUD の活動紹介とともに、ポスター、チラシなどにより会議の PR を行いました。また、「IAUD UD マトリックス ユーザー情報集・事例集」の見本とチラシも展示し拡販の場としても活用しました。

【編集後記】○「Don't change horses in midstream.」という英語の諺がある。英語の授業で先生が、動詞の change を使う際の目的語は horses のように複数形にするようにと、例文として黒板に書いている姿を思い出す。また、米国の政治史では有名な言葉でもある。直訳すると「川の流れの途中で馬を乗り換えるな」ということになるが、「困難な状況に遭遇した場合には途中で指導者を代えてはならない」という意味に使われている。最初にこの言葉が出てきたのは、1864 年の米国共和党の大統領指名候補争いの選挙で、再選を目指すリンカーン大統領が行った演説の中だった。それ以来、米国の大統領選挙の歴史の中で幾度となくこの諺が登場する。米国の大統領選挙は年明け早々に始まり、11 月の国民による直接投票まで続く長丁場である。そんな年に国際情勢の緊張や米国の国際関係に問題が起これと、新聞や雑誌には、この諺を表すイラストが登場する。国内の政治問題は脇に置いて、大統領の下に一致団結しようとの論陣が張られるのである。一部には、大統領選挙の時期に合わせて国際情勢の緊張や国難が起これと分析する政治学者もいたほどであった。

さて日本では、このような考え方・概念があるだろうか。今一度、日本でもこの諺の意味をかみ締めてもらいたいと思ってしまう。(矢辺)

○UD の原点は幅広いユーザーを理解することですが、人を取り巻くさまざまな環境を抜きに考えることは難しくなっています。現在、名古屋で開催されている生物多様性に関する会議 COP10 で扱われるテーマや地球環境保全のための命題なども深いつながりがあり、身の回りの小さな UD から生命の安全にかかわるシビアなテーマまで、考えなければいけない要素は無限にあります。今回の国際会議でも具体的な日用品や製品など目に見える分かりやすいテーマからサステナビリティといったより大きな概念、社会のしくみや政治の在り方まで大変幅広いテーマが設定されており、白熱した議論が期待されます。2002 年の第 1 回目のときと比較して格段に深まった感じを受けますが、その間に UD に取り組んできた方々の多くの気づきがあって、発展・変化を遂げてきた結果といつて良いでしょう。身体的・心理的な負担の軽減や認知的側面などヒューマンファクターだけでなく、社会的な関わりや地球規模での影響を考慮することが求められています。学ばなければいけない要素は増えるばかりですが、頭で考えているばかりでは前に進むことはできません。現実の社会を変革していくには、ある程度の方向性を見極めたところで、一歩踏み出す勇気も重要な気がしています。今回の会議には世界各地で具体的な行動を起こされている方々も多く参加されますが、そんな方々と実際にお会いできるというのも国際会議の大きな楽しみの一つです。(薦)

IAUD Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。

ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報をお寄せください。

また、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報もお知らせください。

ご連絡は、news@iaud.net へ直接、メールをお送りいただくか、事務局あるいは情報交流センターまでお問い合わせいただいても結構です。

無断転載禁止

IAUD Newsletter vol.3 No.7

2010 年 10 月 22 日発行

国際ユニヴァーサルデザイン協議会

事務局 : 225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110

電話 : 045-901-8420 FAX : 045-901-8417

e-mail : info@iaud.net

情報交流センター : 104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9

(IAUD サロン)

トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847

e-mail : salon@iaud.net